

# 4月の中間報告に向け議論深化 今年度最終協議会開く

## 近未来コンクリート研究会

19日の総会で発表するこ  
とも申し合わせた。

同会は、コンクリート  
構造物の長寿命化に向け  
た異業種間の連携強化の  
ため、元広島工業大学教  
授の十河代表が中心とな  
って昨年4月に設立した  
もの。

「初期ひび割れ抑制技  
術（C）協議会」は広島  
工業大学教授の竹田宣典  
氏、「延命化のための維  
持管理技術（M）協議会  
」は（二社）コンクリート  
メンテナンス協会技術委

員長の江良和徳氏、「コ  
ンクリートの生産性向上

（P）協議会」は広島工業  
大学准教授の坂本英輔氏  
をそれぞれ主査とし、発  
注者や生コン、点検・診  
断、設計、施工などの専  
門家が垣根を越えて集ま  
り、議論を重ねている。

今回の協議会のうち、  
C協議会では、マス（大  
断面）コンクリートのひ  
び割れなどを主題に、対  
策のためのチェックリス  
ト作成や水セメント比指  
定の見直し、骨材や混和

材といった材料、施工面  
での対策について意見を  
抽出。

M協議会では、コンク  
リート構造物老朽化の中  
でも特に難しい複合劣化  
と再劣化に関する話題の  
ほか、維持管理を行うた  
めの予算、人員、技術、  
発注形態など全てにおい  
て不足している現状を懸  
念し、解決策を模索し  
た。

また、P協議会では、  
今後の人口減少を見据  
え、仕様の標準化やIT  
技術の活用やセンサー技  
術の向上によるロボット  
化などに光明を見出す方  
向性などを確認した。

近未来コンクリート研  
究会（十河茂幸代表、写  
真）は、3つのテーマ別  
に開いている協議会の今  
年度最終会合（4回目）  
を11日と12日に広島市中  
区で開き、現状の課題の  
抽出や解決に向けた議論  
をさらに深化。2年間の  
開催期間の前半となるこ  
れまでの協議内容を中間  
報告としてまとめ、4月



P協議会のもよう

「話していた。」と  
も検討していきたい」と